

川崎市立多摩病院における医療従事者業務負担軽減計画 2025年度版

病院勤務者の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み

| 番号 | 項目 | 担当部署 | 負担軽減 | 具体的内容 | 目標(値) |
|----|---------------------------------------|-------|-------------|--|--|
| 1 | 薬剤師による医療的ケア児一時保護入院時代行入力 | 薬剤部 | 医師 | 薬剤師が医療的ケア児一時保護入院の代行処方 | 全例実施 |
| 2 | 薬剤師による代行処方 | 薬剤部 | 医師、看護師、看護助手 | 問い合わせして変更があった場合は医師の代わりに注射処方を変更する | 医師の了解を得られた場合は全例実施 |
| 3 | SPD(薬剤師以外の業務補助者)による調剤補助 | 薬剤部 | 薬剤師 | 薬の薬袋へ入れる作業、包装された薬の取り揃え作業 | 時間内の調剤を代行 |
| 4 | 薬剤師による持参薬システムの運用 | 薬剤部 | 医師 | 電子カルテシステムの更新時に持参薬システムを稼働し、院内での運用を検討する | 安全な運用を検討する |
| 5 | 薬剤師による高カロリー輸液の調製 | 薬剤部 | 看護師 | 処方内容が高カロリー輸液であった場合、医師の確認をとり薬剤師が混合調製 | 全例実施 |
| 6 | 薬剤部による定時薬カートセット | 薬剤部 | 看護師 | 薬剤部で定時内服薬カートセットを行う | 6病棟継続して実施 |
| 7 | 脊椎麻酔患者の搬送 | 看護部 | 医師 | 手術後に麻酔科医と担当医が「看護師同士」「看護師と看護助手」のペアで病室に戻ることが可能と判断した場合に対応する | 脊椎麻酔手術件数 「看護師ペア」「看護師・助手ペア」件数の割合 |
| 8 | 医療DX促進 | 看護部 | 看護師 | 通信機能付き測定機器(体温計・血圧計)の活用促進 | 全病棟で取り組む |
| 9 | 特定行為研修修了者によるPICC(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル)挿入 | 看護部 | 医師 | 医師からの依頼の依頼を受け実施 PICC(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル)認定者を増員 | 医師からの依頼は全例実施 PICC(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル)認定者2名増員 |
| 10 | 看護師による胃管挿入 | 看護部 | 医師 | 手順に沿った研修を行い、研修修了者を増員する | 各部署(一般病棟)新規に1人以上育成する |
| 11 | 看護師によるシャント穿刺技術者の人数確保 | 腎センター | 医師 | マニュアルを基にアドバンスC(静脈注射を安全に実施するための判断基準)のシャント穿刺技術者の増員 | 1名 |
| 12 | 看護師によるシャントエコー下穿刺技術者の人数確保 | 腎センター | 医師 | マニュアルを基にアドバンスC(静脈注射を安全に実施するための判断基準)のシャントエコー下穿刺技術者の増員 | 1名 |
| 13 | 看護師による男性膀胱留置カテーテル挿入 | 看護部 | 医師 | 手順に沿った研修を行い、研修修了者を増員する | 各部署(一般病棟)新規に1人以上育成する |
| 14 | 看護師による静脈確保の実施 | 看護部 | 医師 | 2年目看護師を対象とした学習と技術試験を計画的に行い育成する | 2年目看護師37名を対象に実施する |

| | | | | | |
|----|---------------------------------|--------------|--------------|---|--|
| 15 | 助産師による助産外来の拡大 | 看護部 | 医師 | 医師から依頼があったものは全例実施する | 平均3人以上の予約を入れる |
| 16 | 看護師による抗がん剤静脈路確保 | 看護部 | 医師 | 静脈注射アドバンスB(静脈注射を安全に実施するための判断基準)の受講及び認定を行い増員する | 院内2名以上育成する |
| 17 | クラークによるレンタルパジャマの説明や書類の管理 | 看護部 | 看護師 | レンタルパジャマ類の説明や書類の取り扱いを病棟クラークが行う | 夜間休日以外の入院及びクラーク不在日以外は全例クラークが実施する |
| 18 | 看護日誌のRPA化(ソフトウェアロボットにより自動化する技術) | 看護部 | 看護師 | 手動で出力していた看護日誌の出力をRPA(ソフトウェアロボットにより自動化する技術)化する | 継続して実施 |
| 19 | 薬剤師による化学療法診察前問診の実施 | 看護部 | 看護師 | 化学療法診察前問診を薬剤師と共同して実施 | 薬剤師介入対象者(加算対象者)は全例薬剤師が実施する |
| 20 | 病棟看護補助者による内服薬カートセット | 看護部 | 看護師 | 臨時処方薬のカートセット時間を決めて、自部署の看護助手がセットを行う | 手順を作成し、モデル病棟で実施する |
| 21 | 麻酔カート内容の見直し | 看護部 | 補助者 | 麻酔で使用する材料カートのレイアウトと運用方法の見直し | 手術室1～6の麻酔科カート見直し |
| 22 | 手術室看護補助者による手術終了後部屋の片づけ | 看護部 | 看護師 | 麻酔で使用する材料カートの補充方法の見直し | 手術室1～6麻酔科カート材料補充方法の見直し |
| 23 | 看護補助者による患者の保清援助 | 看護部 | 看護師 | 定期的な技術チェックを行い、患者保清援助が実施できる補助者を育成 | 育成プランを作成し、各部署(一般病棟)新規に1人以上育成する |
| 24 | クラークによる文書類管理 | 看護部 | 看護師 | 入院診療計画書の期日内取得の確認をクラークが行う | 書類管理の手順を作成し、各部署のクラークが実施 |
| 25 | 診療アシスタントによる侵襲性の低い検査の説明 | 看護部 | 看護師 | 侵襲性の低い検査の検査概要や開始時間、検査場所の説明を検査予約票を用いて行う | 外来A通路の担当診療アシスタント以外にも拡大させる |
| 26 | 医事課業務の時間確保 | 医事課 | 医事課 | RPA(ソフトウェアロボットにより自動化する技術)で行える業務を選定しシナリオ作成 法人内でもRPA導入の動きがある為、先行導入している多摩から発信はするが、他病院で良い取り組みについて当院での導入を検討 | 今年度はカルテ更新、改定とあるのでRPAの活用を積極的に行い業務時間の確保を行えるよう検討する。 |
| 27 | 適正な人員確保 | 歯科口腔外科(医師以外) | 歯科口腔外科(医師以外) | 人員増員にて歯科衛生士業務分散化し負担軽減を図る | 歯科衛生士パート2名増員(もしくは現状より全曜日1名増員) |
| 28 | 歯科衛生士休憩時間の確保 | 歯科口腔外科(医師以外) | 歯科口腔外科(医師以外) | ・時間交代制の徹底 ・カルテ事前確認の軽減 ・PC台数の増加 ・麻酔科診察介入方法検討 | 常勤歯科衛生士1時間休憩確保 |
| 29 | 手書き依頼書項目の電子化 | 臨床検査部 | 医師 | 電子カルテ未設定項目のオーダーリング化 | 電子カルテ未設定項目 |
| 30 | 造影超音波検査 | 臨床検査部 | 医師、看護師 | 超音波検査時に検査技師が静脈路に造影剤注入装置を接続、操作、抜針、止血を実施 | 造影超音波検査に全例実施 |

| | | | | | |
|----|-------------------------------|-----------|---------------|---|--------------------------------------|
| 31 | 入院患者の採血 | 臨床検査部 | 看護師 | 病棟早出採血が出来ないため、採血室が稼働している時間帯に入室できる入院患者の採血 | 昨年度の件数超え |
| 32 | 病理診断レポート作成 | 病理診断科 | 医師 | 組織診断レポートの一部を技師が下書きを行う | 引き続き継続 |
| 33 | 病理標本作成 | 病理診断科 | 技師 | 作成過程の一部の作業やチェックを事務員が行う | 引き続き継続 |
| 34 | 診断書等医療文書の作成支援 | 総務課MC | 医師 | 全診療科および旧東横病院分の診断書等の作成支援について、医師からメディカルコーディネーター(MC: 医師事務作業補助者)へ依頼あり作成支援を行っている | 引き続き継続 |
| 35 | 初診時等の医師記録の充実 | 総務課MC | 医師 | 診療科からの依頼(指示)に基づき、紹介状、問診票、お薬手帳等から必要事項を医師記録としてMCが入力する | 診療科からの依頼分については全例検討・調整を行う |
| 36 | データ入力支援 | 総務課MC | 医師 | データ登録に必要なデータ拾い上げおよび入力支援を行う(JED、JND、JOANR、IVR、カンファレンス準備等) | 診療科からの依頼分については全例検討・調整を行う |
| 37 | 医師未作成分の初回返書作成支援 | 総務課MC | 医師 | 紹介元医療機関への報告書の作成支援を行う | 医師からの依頼分に対して実施 |
| 38 | 食事栄養指導の新規・継続指導依頼予約代行 | 栄養部 | 医師 | ・入院患者、外来患者の「栄養食事指導依頼」は依頼医の指導の元、管理栄養士が代行入力を実施する | 該当栄養相談依頼全件対応 |
| 39 | 栄養スクリーニング、適正な栄養管理の実施 | 栄養部 | 医師、看護師 | ・食事内容や食形態について、言語聴覚士および看護師と協働し、医師の指示を確認、提案を行う。また時間外オーダーの場合、代行入力を実施する。 | ・食事オーダーは医師の指示のもと代行入力を実施 |
| 40 | 小児科レスパイト入院の経腸栄養オーダー代行入力の実施 | 栄養部 | 医師 | ・経腸指示が食事オーダー締切時間を超過するため、医師の指示に基づき、管理栄養士が代行入力を実施し、看護師と情報共有を行う。 | 入院当日医師の指示を確認し全件実施 |
| 41 | 病棟担当制栄養管理 | 栄養部 | 医師、看護師 | ・管理栄養士は病棟担当制にし、医師と連携し栄養管理を行う。 | 病棟入院患者全員対象 |
| 42 | 入院時栄養スクリーニング | 栄養部 | 看護師 | ・看護師負担を軽減するため、予定外入院の未実施および未評価項目は、看護記録を確認し、栄養スクリーニングを実施する。 | 管理栄養士によるMUST作成および未実施及び未評価項目の再評価を全件実施 |
| 43 | お茶の提供 | 栄養部 | 看護師 | ・お茶をコップに入れて提供している。配膳トレイに載せて提供を要望中だが、食器の変更が必要であり検討中。 | 予算の確保、給食委託会社の契約更新をした上で、実施に向け検討 |
| 44 | 造影剤を使用した検査やRI検査のために静脈路を確保する行為 | 画像診断部 | 医師、看護師 | ・CTやMRIで造影検査を行うときには、診療放射線技師が血管に注射をして造影剤を注入する。検査終了後、針を抜いて止血をすることを実施する。 | 部内技師の半数が取得 |
| 45 | AI議事録等作成ツールの導入 | 総務課、医療情報部 | 看護師、コメディカル、事務 | ・マリアンナアカウントで利用可能な「Google notebookLM」を導入し、議事録や資料作成に関してAIを利用した業務軽減を図る。 | 本ツール導入により、議事録作成や資料作成の業務時間の削減 |
| 46 | 搬送負担の軽減 | リハ科 | 看護助手 | 午前、午後の臨床時間の最後で、リハビリ終了後の帰棟時の搬送については、セラピストの手が空いている場合はできる限り搬送を変わりに行う | 手が空いているときには行動に移せるようになる |

| | | | | | |
|----|------------------------------|-------|----|--|------------------|
| 47 | NST(栄養サポートチーム) 関連 オーダ負担軽減 | 総務課MC | 医師 | NST委員長の指示に基づき、対象患者に採血オーダ (Pre-Alb)を代行入力する | 引き続き継続 |
| 48 | シャントエコー外来への介入 | CE部 | 医師 | 透析で使用する血管をエコーで評価 | 継続的に対応できるようにすること |
| 49 | ペースメーカーの遠隔モニタリ ングへの介入 | CE部 | 医師 | カルテへ取り込む情報の管理を行う | 継続的に対応できるようにすること |